



45
まいん

しかもりしゃたくあと 鹿森社宅跡

別子銅山最大級
石のメインストリート



天まで昇りつめそうな石段

現在では、しっかりと組まれた石垣の中に、社宅のカマド、生協、倶楽部、共同浴場、貯水タンク、小学校、神社など数多くの生活跡が残されています。

しかもりしゃたく 鹿森社宅

の建設は大正5年(1916)7月から始まりました。その翌年には270戸の社宅がありました。

全盛期には300戸、1,300余りの人々が生活していました。

鹿森には、別子銅山の社宅最大の石づくりの階段があります。総延長は1,800メートルにも及びます。鹿森の住人の約8割が通っていました。



鹿森の休日 昭和33年(1958) 日佐初太郎氏撮影



共同浴場跡

共同浴場は、鹿森にたった一つしかなく大変混み合っていました。

当時、賑わいをみせていた鹿森社宅も、別子銅山の閉山に伴い、昭和48年(1973)に55年間の幕を閉じ、今では静かに緑の森へ戻ろうとしています。



現在も残るタンク



これな～んだ?

これは、鹿森社宅にある何かの土台です。さてなんでしょう?

(鹿森社宅記念碑の所にあります)

答えは、裏にあります。

